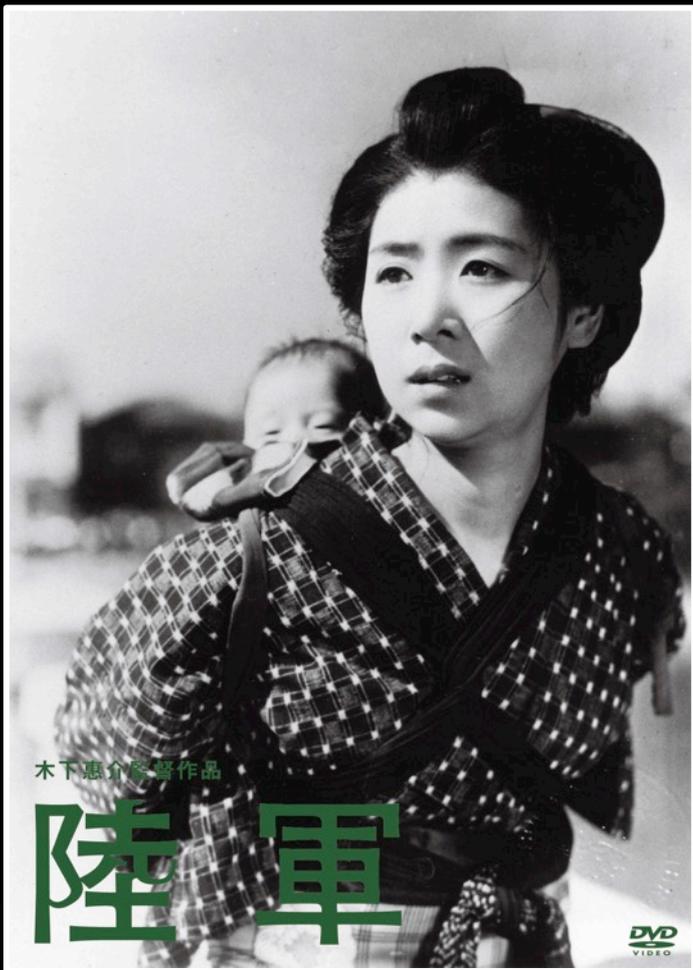


# 映画「陸軍」

1944年制作 陸軍省報道部委嘱作品 情報局撰定国民映画



©1944 松竹株式会社

2025年 8月11日 (月・休)

13時30分～16時30分

文京区民センター 3A会議室

(地下鉄 春日駅 2分・後樂園駅 5分)

## ■プログラム

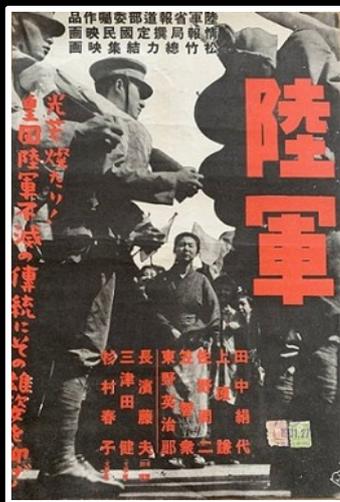
13:30～13:40 この映画について

13:40～15:10 映画『陸軍』(87分)

15:10～15:30 休憩

15:30～16:30 トークシェア

■入場無料 (資料代、会場費に協力をお願いします。)



## 映画「陸軍」制作の背景

戦時下に、陸軍省の依頼で製作されたプロパガンダ映画であり、作品の冒頭に「陸軍省後援 情報局国民映画」という表記がある。太平洋戦争開戦日3周年にあたる日に公開された。

『朝日新聞』に連載された火野葦平の同題名の小説を原作に、幕末から日清・日露の両戦争を経て満州事変・上海事変に至る60年あまりを、ある家族の3代にわたる姿を通して描いた作品である。

時期的に考えても当然、国策に沿った戦意高揚・銃後の意識を鼓舞するという目的が、映画製作を依頼した側にはあつたはずである。ストーリー展開もキャラクター設定も、そういう意図から外れてはいない。しかし、細部の描写は、時々その本来の目的を逸脱しがちであり、最後のシークエンスで大きく違う方向へと展開する。その場面を見る限り、この作品を国策映画と呼ぶことは難しい。結果として、木下は情報局から「にらまれ(当人談)」終戦時まで仕事が出来なくなったと言われている。(Wikipedia 映画『陸軍』より)

監督：木下恵介 脚本：池田忠雄 原作：火野葦平  
製作：安田健一郎 撮影：武富善男  
出演者：笠智衆 田中絹代 東野英治郎 上原謙 杉村春子  
1944年12月7日公開/87分/松竹映画

## この映画を見て考えたいこと

今、わが国で「戦争に反対か?」と問われれば、多くの人が、「反対」と答えるかと思います。しかし、ひとたび日本が戦争になった時、私たちは、それを言い続けることができるでしょうか?

映画『陸軍』は、1944年、戦争の真っ最中に、陸軍省が、国民を戦争に駆り立て、戦争に向かわせる目的で作られた映画です。

この映画を見て、戦前、戦中に生きた大人たちの「戦争」や「国」に対する意識や心情が、どのようなものだったのかを知りたいと思いました。そして、そうした意識はどのように作られていったのかについて考えたいと思います。

そこには「考えることを止める」という力が働いていたのではないのでしょうか。そして、疑問をもつことを許さない軍部、真実を伝えない報道、戦争をするために、邪魔になる疑問や考えを排除する社会の空気があったと思います。

それらは、「新しい戦前」とも言われる「今の私たちの状況」にも当てはまるものがあるのではないのでしょうか。何も知らされていないし、「戦争の危機」など考えようとしません。

この映画を見て、もうひとつ感じたことがあります。戦争が全ての社会の中で、木下恵介監督や映画人たちの軍部に対する抵抗を感じました。この映画に、木下監督たちがどのような反戦の「思い」を込めたのか、感じ取って行きたいと思います。

# 憲法を考える映画の会 (関連上映会) これまでの上映作品 (2013年4月~2025年8月)

<p>第1回 2013年4月06日 戦争をしない国 日本</p>	<p>第23回 2016年1月31日 白バラの祈り ゾフィー・ショル、最後の日々</p>	<p>第49回 2019年3月02日 天から落ちてきた男</p>	<p>第64回 憲法映画祭2022 4月23日・24日 グレッグひとりぼっちの挑戦/ちむぐりさ/ 私たちの生まれた島/若きハルサーたちの唄/ ハーレー市民がつくる町/日本鬼子/ 映画日本国憲法/コスタリカの奇跡</p>
<p>第2回 2013年5月19日 八十七歳の青春 市川房枝生涯を語る</p>	<p>第24回 2016年3月26日 グラニート 独裁者を追い詰める</p>	<p>第50回 憲法映画祭2019 4月26日~28日 あの日の声を探して/天皇の名のもとに/ 証言国際競争/陸軍前線飛行場/ 沖縄スハイ戦史/ありふれたファシズム/ ショックドクトリン/ベトナムから遠く離れて/ 共犯者たち</p>	<p>第8回 憲法を考えるちいさな映画会 2022年6月25日 ヒトラー VS チャップリン 終わらぬ闘い チャップリンの独裁者</p>
<p>第3回 2013年6月15日 映画 日本国憲法</p>	<p>第25回 憲法映画祭2016 5月01日 映画 日本国憲法/ありふれたファシズム/ ショック・ドクトリン</p>	<p>自主制作映画見本市 #1 2019年4月30日 死んだらヒマはない/私の描きたいこと ハトは泣いている/隠された爪跡/ OKINAWA1975/ 知事抹殺の真実/フクシマ2011</p>	<p>第65回 2022年8月13日 <b>TOMORROW 明日</b></p>
<p>第4回 2013年7月06日 日本国憲法誕生</p>	<p>第26回 2016年6月26日 ザ・思いやり</p>	<p>第51回 2019年6月30日 沖縄から叫ぶ 戦争の時代 宮古島からのSOS</p>	<p>自主制作映画見本市 #9 2022年9月18日 2887/フクシカチニオンゲング!/ 葫蘆島運送/岸辺の代</p>
<p>第5回 2013年8月10日 日本の青空</p>	<p>第27回 2016年7月24日 ハトは泣いている 時代(とき)の肖像</p>	<p>第7回 憲法を考えるちいさな映画会 2019年7月14日 言わねばならないこと/遅すぎた聖断</p>	<p>第66回 2022年10月23日 教育と愛国</p>
<p>第6回 2013年9月14日 ヘアテの贈りもの</p>	<p>第28回 2016年9月17日 焼け跡から生まれた憲法草案</p>	<p>第52回 2019年8月10日 ピカドン ひろしま</p>	<p>第67回 2022年12月25日 日本原 牛と人の大地</p>
<p>第7回 2013年11月02日 ショック・ドクトリン</p>	<p>第29回 2016年10月15日 NO (ノー)</p>	<p>自主制作映画見本市 #2 2019年9月23日 「在日」/証言 中国人強制連行/ レーン・宮沢事件/ファルージャ/ シロウオ/生きるのに理由はいらない</p>	<p>第68回 2023年2月12日 テロリストは誰?</p>
<p>第8回 2013年11月30日 レーン・宮沢事件</p>	<p>第30回 2016年11月03日 わたしの自由について SEALDs 2015</p>	<p>特別講演会 2019年10月22日 「現代天皇制の心の支配」 山田明 先生 遅すぎた聖断</p>	<p>第69回 憲法映画祭2023 4月29日30日 はだしのゲン/対馬丸/うしろの正面だあれ/ 少女ファニーと運命の旅/ジョニーは戦場へ行った/ 沖縄うりずんの雨/教育と愛国/ある戦争</p>
<p>第9回 2014年1月18日 ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎90歳</p>	<p>第6回 ちいさな映画会 2016年12月10日 抗い ARAGAI 横浜事件を生きて</p>	<p>第53回 2019年10月26日 ニジノキセキ</p>	<p>第70回 2023年7月16日 ドキュメント石垣島/ 沖縄、再び戦場へ(仮) スピンオフ作品</p>
<p>第10回 2014年2月08日・3月01日 “私”を生きて</p>	<p>第31回 2017年1月29日 横浜事件を生きて 横浜事件 半世紀の問い</p>	<p>特別上映会 2019年11月03日 靖国・地霊・天皇 遠近を抱えて PART 2</p>	<p>第71回 2023年8月6日 広島・長崎における原子爆弾の影響</p>
<p>第11回 2014年4月12日 9条を抱きしめて</p>	<p>第32回 2017年2月25日 小林多喜二</p>	<p>第54回 2019年12月08日 主戦場</p>	<p>第72回 2023年10月21日 鶴彬 こころの軌跡</p>
<p>第12回 2014年5月24日 死んだらヒマはない 益永スミコ86歳</p>	<p>第33回 2017年3月26日 武器なき闘い</p>	<p>自主制作映画見本市 #3 2020年1月13日 陸軍前線飛行場/靖国・地霊・天皇 憲法を武器として/9条を抱きしめて 裁判所前/選挙が生まれる</p>	<p>第73回 2023年12月23日 流血の記録 砂川</p>
<p>第1回 ちいさな映画会 2014年6月21日 ラブ沖縄</p>	<p>第34回 憲法映画祭2017 4月29・30日 意志の勝利/白バラの祈り/夜と霧/ 顔のないヒトラーたち/戦争をしない国 日本 大東亜戦争/天皇と軍隊</p>	<p>第55回 2020年2月11日 アフガニスタン 用水路が運ぶ恵みと平和</p>	<p>第74回 2024年2月3日 サイレント・フォールアウト</p>
<p>第13回 2014年7月19日 ファルージャ イラク戦争 日本人質事件…そして</p>	<p>第35回 2017年5月27日 知事抹殺の真実</p>	<p>第56回 2020年9月21日 沖縄と本土 一緒に闘う ヤジと民主主義</p>	<p>第75回 憲法映画祭2024 4月29日 ヤジと民主主義/してはら/ 荒野に希望の灯をともす/戦争のつくりかた/ ミソイル基地がやっつけた 島で生きる/ サイレント・フォールアウト</p>
<p>第2回 ちいさな映画会 2014年8月17日 僕たちは見た 沈黙を破る</p>	<p>第36回 2017年7月01日 テロリストは誰?</p>	<p>自主制作映画見本市 #4 2020年9月26日 ヒロシマナガサキ 最後の二重被爆者 私たちは忘れたい/二つの故郷を生きて 棘/人らしく生きよう/生きるのに理由はいらない</p>	<p>第76回 2024年6月29日 アトミック・カフェ</p>
<p>第14回 2014年9月21日 ありふれたファシズム 野獣たちのバラード</p>	<p>第37回 2017年8月27日 戦ふ兵隊 日本の悲劇</p>	<p>第57回 2020年11月03日 地の塩</p>	<p>第77回 2024年8月11日 生きていてよかった/千羽鶴</p>
<p>第3回 ちいさな映画会 2014年10月4日 速報 辺野古の闘い 2014年8月 アルマジロ</p>	<p>第38回 2017年10月14日 隠された爪跡 払い下げられた朝鮮人</p>	<p>特別上映会 2020年11月23日 人らしく生きよう 国鉄冬物語</p>	<p>第78回 2024年10月14日 琉球弧を戦場にすな</p>
<p>第15回 2014年11月22日 ANPO あの熱かった時代の「抵抗」のアート</p>	<p>第39回 2017年12月10日 ジョン・ラーベ 南京のシンドラ</p>	<p>自主制作映画見本市 #5 2021年2月23日 天皇の名のもとに/グラニート/ ザ・思いやり/チェルノブイリハート</p>	<p>第79回 2025年1月12日 映画 ○月○日、区長になる女。</p>
<p>第4回 ちいさな映画会 2015年2月1日 スペシャルリスト わが青春に悔なし</p>	<p>第40回 2018年1月27日 憲法を武器として 憲法事件 50年目の真実</p>	<p>第58回 2021年3月27日 言わねばならないこと ショック・ドクトリン</p>	<p>第80回 2025年3月20日 ガザからの報告</p>
<p>第16回 2015年3月14日 証言 侵略戦争 証言 中国人強制連行</p>	<p>第41回 2018年2月25日 ザ・思いやりパート2 尊皇と行進曲</p>	<p>第59回 憲法映画祭2021 4月17日 戦争のつくりかた/戦争をしない国日本 シャドー・ティール/1987、ある買いの真実</p>	<p>第81回 憲法映画祭2025 4月29日 禁じられた遊び/ヘアテの贈りもの オン・ザ・ロード/夢みる校長先生</p>
<p>第17回 2015年4月25日 イラク 戦場からの告発 ジャーハダ イラク異議の闘い シリア内戦 イスラム国の正体を暴く</p>	<p>第42回 憲法映画祭2018 4月29・30日 すべての政府はウソをつく/ニッポンの嘘 東京裁判/NO/ハトは泣いている トランプのアメリカ</p>	<p>第60回 2021年6月06日 ハワイマレー沖海戦 ドキュメント真珠湾攻撃/ミッドウエイ海戦</p>	<p>第82回 2025年6月28日 琉球弧を戦場にすな 2025 揮啓 住民投票さま 石垣島のまんなかで起きたこと</p>
<p>第18回 2015年6月13日 井上ひさし 九条を語る 加藤周一 九条を語る 女性達にとっての日本国憲法</p>	<p>第43回 2018年6月3日・30日 500年 権力者を裁くのは誰か グラニート 独裁者を追い詰める</p>	<p>第61回 2021年8月08日 荒野に希望の灯をともす</p>	<p>第83回 2025年8月11日 陸軍</p>
<p>第19回 2015年7月18日 東京裁判</p>	<p>第44回 2018年8月25日 「在日」</p>	<p>自主制作映画見本市 #6 2021年9月26日 外国人収容所の闘い/君が代不起立/ 終わりの見えない闘い/間に消されてなるものか</p>	
<p>第5回 ちいさな映画会 2015年8月23日 弁護士 布施辰治 天皇の名のもとに</p>	<p>第45回 2018年9月23日 スペシャルリスト 真実なき独裁者</p>	<p>第62回 2021年11月21日 子どもたちの昭和史</p>	
<p>第20回 2015年9月13日 誰も知らない基地のこと</p>	<p>第46回 2018年11月03日 OKINAWA1965</p>	<p>自主制作映画見本市 #7 2021年12月26日 原爆の町を追われて/ハーレー市民がつくる町 日高線と生きる/作兵衛さんと日本を握る/ いのちの海</p>	
<p>第21回 2015年10月25日 首相官邸の前で</p>	<p>第47回 2018年12月08日 南京! 南京!</p>	<p>第63回 2022年2月06日 轍</p>	
<p>第22回 2015年11月28日 ハーツ・アンド・マインズ ベトナム戦争の真実</p>	<p>第48回 2019年1月27日 わたしの描きたいこと</p>	<p>自主制作映画見本市 #8 2022年3月13日 傍観者あるいは偶然のテロリスト/ 海辺の彼女たち/ウィシュマ・サンダマリ/ オキユバイジャンティ/ メトロレティーブルース</p>	

## 憲法を考える映画の会

〒185-0024

東京都国分寺市泉町3-5-6-303

mail: hanasaki33@me.com

TEL:042-406-0502

ホームページ

http://kenpou-eiga.com/

●毎回の「映画の会の案内」をご希望の方は、上記のMailアドレスまで、その旨、お知らせください。